

「伝統・文化」体感型ワークショップ 【研修編④】

絵手紙入門（受講者 15 名）

講 師：堀井 桃蓮

実施日：平成 22 年 8 月 6 日(金)／8 月 9 日（月）

=====

- 目 的：・日本の四季や生活の中で感じる心や思いを相手に届けるために、絵や言葉で表現する。
- ・「絵手紙は、生活感あふれるコミュニケーション手段である」ことを理解し、身近なものや季節の風物を題材にして、相手を思って、絵を描き、思いを書き綴ることができるようになる。
 - ・「書は個なり、絵は個なり」を理解する。

■期待される効果：

- ・絵も字も上手である必要はなく、相手を思い、心を込めて描くことが大切であることを知る。
- ・思いを込めて描くことが、上質のコミュニケーション手段となることに気付く。

■準備教材・設備等：

絵の具、パレット、筆、水入れ、ティッシュ、画用紙（はがき大）、筆拭き雑巾

■研修の流れ（@3 時間×2 日）

「絵手紙」についての話

↓

「金魚」「ハート」「幸せの重ね色」の描き方演習

↓

自己紹介と作品発表

↓

「草花」や「ファブリックの図案」を観察して描く

↓

「香月泰男」の作品紹介とお話

↓

身近にあるものを題材にして大胆に描く

↓

「平和の祈り」をイメージして、こどもたちへのメッセージを添えた作品づくり

↓

まとめ：互いの作品を鑑賞し、授業での活用等について紹介する。

■Advice points

- ・面相筆など筆圧によって太さが変わる筆などを準備すると、創作の幅がひろがる。

■講師の感想（要約）

研修生全員で穏やかに創作できる空間をつくることができ、それぞれ、互いに学び合い、講師自身もイマジネーションを高めることができた。1 日目に、理念や理論をしっかりと学習し、基礎試作を新鮮にやり遂げ、2 日目には、応用編としての創作作品作りに熱心に取り組み、十分な成果があった。「絵も字も個なり」を理解し、「絵手紙」が伝統文化教育としての教材になることを、気付いてもらえた。

＜受講者の感想＞（抜粋・要約）

- ・筆の使い方や色のつけ方など、直接アドバイスしていただき、自分の絵にも活用できた。
- ・筆で絵を描く方法の中でも、具象的に描けたことがうれしかった。
- ・様々な視点から「伝統・文化に関する教育」についてお話を聞き、実技を行って大変感動した。
- ・堀井先生にほめていただいて、教師が子どもたちに投げかける一言が大きな影響力をもつことが身にしみてわかった。絵を描くという自由な活動が自信や意欲につながることを実感できた。
- ・堀井先生のすばらしい人柄に触れ、技法だけでなく講師の語りかけなど学ぶところが多かった。
- ・絵手紙は芸術ではなく、コミュニケーションのためのものであることが理解できてよかった。
- ・「絵は個なり」という言葉を聞いて安心して取り組むことができ、絵手紙がとても身近に感じた。
- ・教育や自分自身を振り返る時間が作れた。子どもたちの指導に役立てたい。
- ・これから機会を見つけて授業で取り上げたいし、自分自身でも絵筆を握っていきたい。

